



## 中学校の教科書の採択にあたり 教員や市民の声を尊重してください

この夏、来年度から使われる中学校の教科書（全教科）の採択が行われます。

報道によると、ほとんどの教科書に「QRコード」など二次元コードが掲載され、デジタル教材の数が数倍になっています。デジタル教材は検定の対象外であり、問題のあるコンテンツが子ども目に触れる可能性もあると不安視されるなか、採択の判断基準を「QRコード」の数の多さやデジタル教材の内容ではなく、紙の教科書の記述内容がしっかり比較分析され判断されることが望まれます。

また、今回展示される教科書全体が、政府見解通りの記述を求める検定基準や2021年の「強制連行」「従軍慰安婦」は教科書の用語として不適切とする閣議決定の影響を受けており、教科書記述に対する政治介入や政府見解の押し付けた教科書では、子どもたちの考える力が育たないのではないかと懸念しています。

現行の制度では、教科書は「教育委員会が採択する」とされていますが、どの子もよくわかり、楽しい学習がすすめられるよう、よりよい教科書が採択されるために、実際に使用する教員や保護者、市民が教科書をしっかり見ていくことが重要だと感じます。

教科書展示に当たっては、展示会の場所、日程、教科書採択に関する会議の日程を市民に広く明らかにし、展示会場を増やすなどの対応を求め、以下要請します。

### 記

1、展示会の場所や展示期間の拡大し、市民が意見を寄せられるようにすること。教科書採択に関する会議の日程を市民に広く知らせてください。

1、教科書採択は公正に行われるよう、公開・傍聴を認め、市民の声を採択の資料に入れること。また、傍聴スペースを広くとる、第二会場を設けるなど、希望者全員が傍聴できるようにしてください。オンライン会議の場合は、動画配信をおこなってください。

1、日本国憲法、子どもの権利条約の精神にもとづく教科書を採択してください。

1、教科書採択にあたっては、現場の先生の声をかきとってください。